

学部連携アドバンスト病院実習

【一般目標 (GIO)】

専門性の高い各医療専門職の連携・協力により、患者中心の高度かつ最善の医療を提供、実践できることを理解するために、複数の学部学生がチームとして連携し、専門性の高い医療を専門施設で体験あるいは実施することで、高度な専門性に基づくチーム医療に必要な知識、技能、態度の基本を修得する。

【行動目標・到達目標 (SBOs)】

1. 専門性の高い領域（がん、糖尿病、感染症、救急医療、周産期医療など）の医療におけるチーム医療の役割を説明できる。
2. 専門性の高い医療の中で、自らの専門職能（医師、歯科医師、薬剤師、看護師、作業療法士、理学療法士など）がどのように活かされるかを討議できる。
3. 専門性の高いチーム医療で活動するためには、どのような知識、技能、態度が必要かを説明できる。
4. 専門性の高い医療で求められる患者とのコミュニケーションや個人情報に対する配慮を行うことができる。
5. 専門性の高いチーム医療の対象となる患者の診断、治療、ケアに関わる問題点を発見できる。
6. 多くの専門性の高い医療スタッフと討議して、患者の病態、治療、ケアの方針や課題を共有できる。
7. 専門性の高い知識や技能と科学的根拠に基づいて、患者が望む最善の治療やケアを提案できる。
8. 専門性の高いチーム医療を見学あるいは実施して、その結果を確認し医療チームで共有、討議できる。

【対象学年・時期】

医・歯・薬学部6年生、保健医療学部4年生の学部連携アドバンスト病院実習を選択した学生

4週間の実習は、5月9日（月）～6月3日（金）

2週間の実習は、5月9日（月）～5月20日（金）、

あるいは5月23日（月）～6月3日（金）

【実習概要】

がん（乳腺外科、がん化学療法）、糖尿病、感染症、救急医療、新生児を中心とした周産期医療等の同じ専門領域に関心をもつ複数学部混合の学生グループ（5人程度）が、関心領域の複数の医療現場（病棟、外来、検査、手術・放射線治療、生活指導、リハビリテーションなど）で、高度な医療を行う医療チームに加わり、参加型実習を2週間あるいは4週間実施する。学生グループは医療スタッフとともに討議により情報を共有し、連携・協力して最善の治療やケアについて提案し、可能な範囲内で実施する。

【評価】

実習時の積極性やチームワーク、自己学習などに対する態度、実習報告書、出席を基に総合的に評価する。なお、事前の目標書き出しシート、実習中の体験シート、実習後の振り返りシート、成長報告書を用いて、ポートフォリオによって自らの成長の振り返りを行う。

【平成23年度実施内容の概要】

医学生は早期に海外を含めた実習先の選定が行われており、実習の広報が遅れたため、医学生の正式の参加は4週間コースの糖尿病のみであった。また、歯学生の参加はなかった。4学部が揃った実習ではなかったが、各学部独自の実習では、その学部の職種が担当となり、一側面からの学びになる。今回は、各病棟で、医師、看護師、薬剤師などが担当となり、それぞれの役割と連携を学ぶことができた。

1-【 4週間コース 】

1) 内分泌代謝科 (昭和大学藤が丘病院)

医学生1名、薬学生1名で行った。糖尿病を取り巻く医療として、医師だけでなく、看護師 (認定看護師)、薬剤師、栄養士、糖尿病療養指導士などが、チームとして関わっており、その役割と連携について学んだ。糖尿病で教育入院の患者の受け持ちとなり、診断、治療、継続的な患者教育について学び、2名で医学的な内容と薬学的内容の交流および情報交換を行った。

2) 小児科・総合周産期母子医療センター新生児部門 (NICU)

薬学生1名、看護学生2名で行った。超低出生体重児・超早産児を担当し、医師、看護師、薬剤師のチーム医療と共に、看護師間でも、師長、チームリーダー、専門看護師、認定看護師の役割と連携についても学んだ。臨床実習とともにテーマを決め、研究もおこなった。看護学生は、「NICUでの母子分離による愛着形成への影響」、「NICUにおける感染予防策」について、看護師へのインタビューを行った。薬学生は、「患児に薬剤を投与する時の困難性」、「薬剤師に求めること」を、医師、看護師にインタビューした。薬剤師として、相談しやすい、話しかけやすい存在でいてほしいと言われ、将来の病棟薬剤師像を描いたようである。

2-【 2週間コース 】

1) 腫瘍内科

薬学生2名、看護学生1名で行った。対象患者は食道がん、多発転移の患者であった。病棟の医師、看護師も、今後の化学療法の継続について議論し、結論は出ていなかった。学生チームは、今回の化学療法の効果判定を踏まえて、本人の意向、化学療法のメリットとデメリット、在宅療養の可能性などから、独自の提案を行った。

2) プレストセンター

薬学生2名で行った。実習中の医学生とともに行動した。乳がん患者の検査、診断、治療、精神的ケアの一連の流れを学んだ。各職種の患者へのアプローチの違いを理解し、薬剤師の取り組むべき業務が多くあることに気付いたようである。他領域でも同じであるが、チーム医療に参加するには、①包括的知識の習得、②コミュニケーション能力の向上、③他職種の役割を知ることの重要性を改めて体感した。

3) 臨床感染症学 (院内回診型)

薬学生1名、看護学生2名で行った。実習中の医学生と一緒にラウンドした。院内のICTと連携し、重症感染症の診断・治療、院内感染発症防止について学んだ。抗菌薬は、感染症に使うのではなく、原因菌に対して使うものであり、医師に対して、薬剤師の立場から、適切な抗菌薬の選択や使用期間を推奨する必要性を学んだ。

4) 救急医学科

薬学生2名、看護学生1名で行った。実習中の医学生と行動を共にした。脳低体温療法を行っている患者の担当となった。救急センターで救急患者の対応に参加するとともに、夜間の当直も行った。心停止の患者に対しての心臓マッサージ、心電図モニターの装着なども経験した。ホットラインが鳴った後の各スタッフの行動手順と役割を知り、チーム医療の大切さと共に、自身の職種が、プロとして何を身につけていくべきかを学んだ。